

愛知県教育委員会教育長 様

13
2018年7月

学校「牛乳・ミルク給食」について、「公費・補助金で購入したものを、廃棄のため公費でカバーするような」ことをやめるために、毎月、事前に飲む生徒の希望を取ること。を求める請願。

請願人

宮崎邦彦

住所

1 請願の経過、趣旨、(注 学校職員とは、学校に勤務する全職員をさす)

実態は名古屋市を参考にする

- (1) 今年度、学校牛乳・ミルク給食、飲まなかったミルクは、各学校で処理するということが、報道される。各学校で下水道に流すということと理解する。牛乳・ミルクは補助金が出ていると聞いている。
- (2) これまでは、残った牛乳は、納入業者が、引き取っていたと、認識していた。
- (3) 以前、寒い日等は、1クラス、2ケタ以上の本数が、残っている学校もあったと聞く。
- (4) ほぼ全員が、牛乳・ミルクを、飲むという前提で、お金を集め、納めている。
- (5) この牛乳・ミルクには、補助金がついている。残ることも問題であるが、学校給食で、残すなどということ強制的に担任が対応することも、問題であり、実際に問題があったことも報道されている。
- (6) 現在の状況で、もし学校で牛乳・ミルクの廃棄ということになると、相当量の残量が予想される。残すなどということ、問題が起きないことを心配する。
- (7) 集めて、流すということになり、職員の負担が増えることは、予想される。
- (8) そのまま流したとしても、結果的に、下水処理で、税金がかかるということになる。薄めて流しても、それはそれで、税金がかかる。
- (9) 極論であるが、牛乳・ミルクをやめたら問題は解決できる。
- (10) 残ることが、廃棄ということになるといえる。業者が引き取ってもらえないということから、廃棄することが学校に求められ、一部公費補助金による牛乳が公費(税金)で廃棄されるということである。
- (11) 強制的に、牛乳を飲ませることなく、残量をなくするために(食品ロス半減へ目標 資料2)、希望による、申し込みを確立することであるといえる。確かに手間はかかるといえるが当然のことである。飲めない人、のまない人をどうということなく、飲みたい人を、申請してもらおうということ、徹底することである。そのためには、経過を含め文書にて、保護者に、配布することが求められる。



添付資料1、29愛学協第3-1号

資料2 朝日新聞 2018年6月19日夕刊

請願事項

- 1 牛乳・ミルク代には、補助金が出ていること、廃棄にはお金がかかることを明記して知らせ、牛乳・ミルクの希望を毎月とること（希望する人の申請ということにする）
- 2 （これまで通り、残った牛乳・ミルクは、パックも）業者には、廃棄される牛乳・ミルク、パック等引き取ってもらうこと。
- 3 その場合、牛乳・ミルクの廃棄費用は、牛乳・ミルク代に含むこと。現在の費用から値上がりになることを周知する事。
- 4 牛乳・ミルクを含め、給食で、飲むこと等を強制がないように配慮すること。

口頭陳述を希望する